

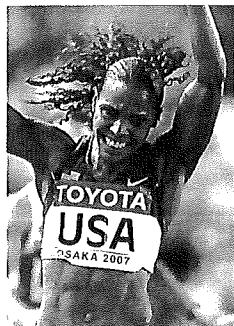
最近のおもなドーピング違反



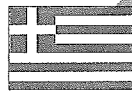
世界陸上大阪大会 (2007年)

フランス選手に違反の疑い

大阪で開かれた世界陸上選手権 (8月25日～9月2日)では、事前検査でフランス選手1人にドーピング違反の疑いが明らかになった。大会期間中は参加選手のほぼ半数の976人に検査を行い、違反はなかった。一方、アテネ・オリンピックのアメリカ代表に決まりながらドーピング違反で出場をのがしたトリー・エドワーズ選手が女子四百メートルリレーで優勝、復活を果たした。



四百メートルリレーで優勝したアメリカの競走選手、エドワーズ選手＝9月1日



アテネ・オリンピック (2004年)

オリンピック最多の違反26件

陸上の男子ハンマー投げで優勝したハンガリーのアドリアン・アヌシュ選手がドーピングの再検査に応じなかったため失格となり、金メダルを取り上げられた。2位の室伏広治選手がくり上げて優勝。アヌシュ選手は検査に使う尿を他人のものとすりかえていた。大会のドーピング違反は26件を数え、オリンピック史上最多だった。



表彰式で金メダルをほこらしげに見せるアヌシュ選手。右は室伏選手＝2004年8月23日

夏のオリンピック

ドーピング違反数 (5件 1件)

1968年	メキシコ	1件
72年	ミュンヘン	5件
76年	モントリオール	5件
80年	モスクワ	5件
84年	ロサンゼルス	5件
88年	ソウル	5件
92年	バルセロナ	5件
96年	アトランタ	5件
2000年	シドニー	5件
04年	アテネ	26件

国際オリンピック委員会の資料から



トリノ・オリンピック (2006年)

オーストリア選手を永久追放

スキースの強豪国・オーストリアのスキー距離選手らがオリンピック参加のために借り上げていた宿舎をイタリアの警察が捜索。ドーピングをうかがわせる注射器や薬の入った袋などが見つかった。国際オリンピック委員会 (IOC) は今年4月、選手6人をドーピング違反で失格とし、オリンピックから永久追放することを決めた。



反ドーピング条約

正式には「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」という。2005年10月に国連教育科学文化機関 (UNESCO) の総会で採択された。条約を結んだ国が発効に必要な30カ国をこえたため、今年2月に発効した。各国政府に対し、ドーピング防止のための教育活動や国際協力、プロスポーツへの働きかけなどを求めている。

ゆる
許すな!
ドーピング

・発効……法律や条約などが効力を持つようになること。

スポーツの成績をよくしようと、薬物などを使って運動能力を高めるドーピング (禁止薬物使用) が後を絶たない。日本のプロ野球とサッカー・Jリーグでも初の違反が明らかになった。今年2月には日本も参加する「反ドーピング条約」が発効。ドーピングを防ぐいっそうの努力が求められている。

Jリーグとプロ野球 (2007年)

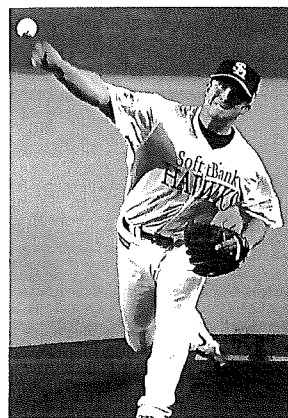
医師の静脈注射でアウト

サッカー・J1 川崎の我那覇和樹選手＝写真＝が5月8日、ドーピング違反で6試合の出場停止処分を受けた。疲労回復のためチームの医師からビタミン剤の入った静脈注射(点滴)を受けたことが違反とされた。静脈注射は禁止薬物の使用をかくす効果があり、Jリーグは本当に必要な場合以外は禁止している。医師は「治療のためだった」としたが、Jリーグは認めなかった。



髪を増やす発毛剤で違反

プロ野球・ソフトバンクのリック・ガトームソン投手＝写真＝が8月10日、ドーピング違反で20日間の出場停止処分を受けた。飲んでいた発毛剤に筋肉増強剤などが使われたあとをかくす薬物がふくまれていたためだ。ガトームソン投手は発毛剤のことを球団に申し出ていたが、球団は何の対策もとらずに放置していた。球団にも制裁金750万円の処分が出た。



サッカーのワールドカップ(W杯)では、日本と韓国がいっしょに開いた2002年の大会、06年のドイツ大会とも違反者は一人も出なかったんだ



ドーピング違反の多いスポーツ

- ①(1)自転車 4.17%
- ②(8)重量挙げ 2.86%
- ③(4)トライアスロン 2.83%
- ④(3)ボクシング 2.39%
- ⑤(2)野球 2.32%
- ⑥(15)近代五種 2.08%
- ⑦(9)ハンドボール 1.99%

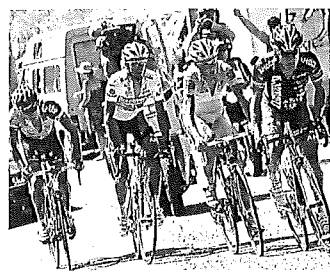
(検査数に対する違反数の割合。2006年・世界反ドーピング機関まとめ、かつこ内は05年順位)

ツール・ド・フランス (2007年)

薬物にまみれた伝統レース

世界最高峰の自転車ロードレースといわれるツール・ド・フランスでドーピング違反が相次いで見つかり、違反選手をかかえる2チームと選手3人がレース途中で出場をやめた。優勝したスペイン選手にも疑いが持ち上がった。毎年のように薬物問題がおきており、オリンピックから自転車競技をはずすべきだという意見もある。

・ツール・ド・フランス……700年をこす伝統を持つ自転車レース。フランスや周辺国をふくむ約3,500kmのコースをほぼ3週間かけて走る。

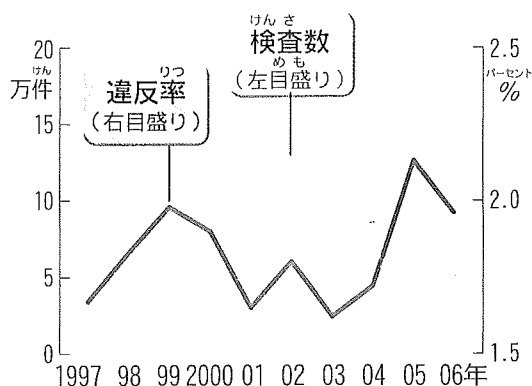


ドーピング違反がなくなるツール・ド・フランス＝2007年7月25日、AP

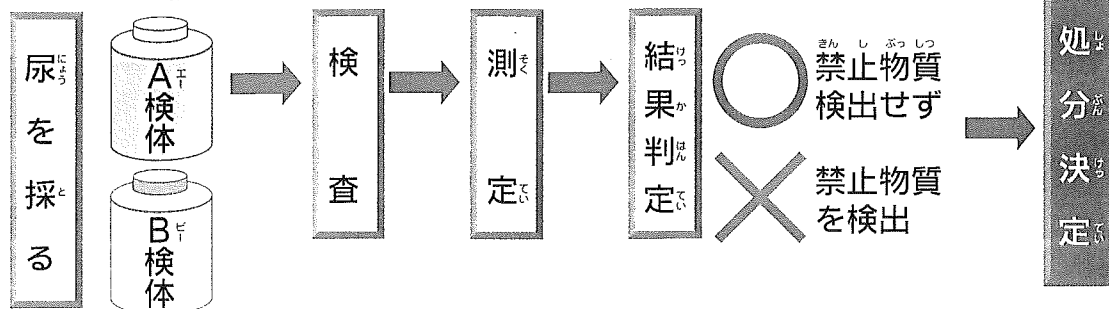
ドーピングは選手もスポーツもだめにするんだ

- 選手の健康に害がある。競技をやめた後も害が残ったりする。
- ルールを守らず、こっそり自分だけ有利になるのはフェアプレーに反する。
- 青少年がまねをするなど、社会に悪い影響をあたえる。
- スポーツの良さが失われ、スポーツがそっぽを向かれる。

選手100人のうちほぼ2人が違反



ドーピング検査の流れ



プロスポーツの処分はあまい?



これまでドーピング防止に熱心でなかった日本のプロスポーツにも、検査に力を入れる動きがあるんだ。でも、プロ選手は試合に出場できなくなると、お金がかせげなくなるよね。プロは処分があまいという意見もあるよ。

尿は検査用のA検体と保管用のB検体の二つを採る。A検体の検査でドーピングの疑いが生じた場合にB検体で再検査を行う。オリンピックなどの競技会の場合、検査は成績の上位3人と任意に選ばれた選手に対して行う。ぬき打ちで練習中にも実施する。

プロ野球

ドーピング対策に本腰

プロ野球がドーピング検査を本格的に実施するのは今年からだ。選手にガイドブックを配ったり、講習会を開いたりした。ガトムソン投手(ソフトバンク)の処分は出場停止20日間だったが、世界反ドーピング機関(WADA)やアメリカ・大リーグのルールに比べると軽いとみられた。

大相撲

反ドーピング委員会を設置

日本相撲協会も今年、力士の体調管理を目的に反ドーピング委員会を設置した。協会では「力士は健康が一番。現役をやめた後も体調を保たなければいけない」としている。すぐにドーピング検査を取り入れるのではなく、ドーピングの危険性を教える活動に力を入れるという。

ゴルフ

アマ選手権に次いでプロも

日本ゴルフ協会は今年、反ドーピング委員会を設置。日本アマチュア選手権と日本女子アマチュア選手権で初めてドーピング検査を行った。プロのツアー(大会)でも実施が検討されている。アメリカでは男子ツアーは年内にも、女子ツアーは08年から検査が行われる見こみだ。

キーワード

世界反ドーピング機関 (WADA)

国際オリンピック委員会(IOC)が呼びかけるかたちで1999年に設立された。禁止薬物のリスト、検査や処分の基準などをまとめ、世界の多くの国や競技団体はこれにならっている。2001年に日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が発足。国内のおもな競技団体が参加しているが、プロ野球とJリーグは加わっていない。

処分のルールはこうなっている

WADA

- ・1回目の違反=2年間の出場資格停止
(悪質な場合は4年間)
- ・2回目の違反=永久に出場資格を停止

プロ野球

- ・1試合以上10試合以下の公式戦の出場停止
- ・1年以下の公式戦の出場停止
- ・無期限の出場資格停止
- ・球団に1000万円以下の制裁金

Jリーグ

- ・1試合以上6試合以下の公式戦の出場停止
- ・1年以下の公式戦の出場停止
- ・無期限の出場資格停止
- ・クラブに3000万円以下の制裁金

大リーグ

- ・1回目の違反=50試合の出場停止
- ・2回目の違反=100試合の出場停止
- ・3回目の違反=永久追放

プロ野球とJリーグの処分は違反の量によって決まる。

「検査」「違反」のいたちごっこ



薬を使って体を強くしたり、戦う気持ちを高めたりするだけがドーピングではないんだよ。検査が厳しくなると、それをすりぬける新しい方法が出てくるんだって。取りしめる側と違反者とのいたちごっこが続いているんだ。

■血液ドーピング

事前に選手から血液をぬき取って保存し、競技前に再び選手の体にもどす。血液の酸素を運ぶ量が増え、持久力(長く持ちこたえること)が高まるとされる。血をつくる作用を強めるホルモンの一種、エリスロポエチン(EPO)も広く利用されているとされる。オリンピックでは2000年夏のシドニー大会から血液検査が実施されている。

■ヒト成長ホルモン

筋肉の成長をうながすホルモンで、病気の治療に使われてきた。もともと体内にあるため、不正に取り入れても確認が難しいとされた。2004年のアテネ・オリンピックで検査の対象となったが、費用がかかるのが難点という。体の一部が大きくなったり、心臓に問題がおきたりする副作用(本来の作用とともに起こる有害な作用)がある。

■遺伝子ドーピング

遺伝子を操作して、たくましい筋肉をつくったり、赤血球を増やしたりする。難病の治療のために開発された技術を悪用したもので、究極のドーピングといわれる。いったん遺伝子ドーピングを行うと、元の状態にもどすことはできない。実際に行われたとの報告はないが、世界反ドーピング機関は「最悪の人体改造」と警戒している。



日本アンチ・ドーピング機構 (ドーピングに関する情報やニュースなど)
<http://www.anti-doping.or.jp/>

日本オリンピック委員会「アンチ・ドーピング」
http://www.joc.or.jp/anti_doping/index.html

三菱化学メディエンス(ドーピング検査の方法や統計など)
<http://www.medience.co.jp/doping/index.html>

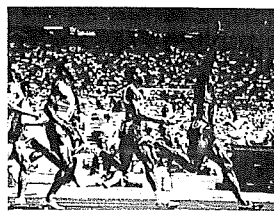
日本野球機構「スポーツとドーピング」
<http://www.npb.or.jp/anti-doping/chapter1.html>

世界記録保持者が3人失格

人間はどれだけ速く走れるのか。スポーツの原点ともいえる陸上男子百メートルだが、過去に世界記録を出した3人がドーピング違反で失格となり、記録を取り消された。

9秒79 ベン・ジョンソン選手(カナダ)

1988年9月のソウル・オリンピックで、9秒79の世界新記録を出して優勝=写真右はじ。筋肉増強剤を使っていたことがわかり、レース3日後に失格となった。2年間の資格停止処分の後、復帰したが、93年に再び筋肉増強剤が検出され、永久追放となった。



9秒78 ティム・モンゴメリ選手(アメリカ)

日本選手と変わらない身長178センチ、体重69キログラムの体格で、2002年9月に9秒78をマーク=写真AP。ジョンソン選手の「幻の世界記録」を14年ぶりにぬりかえた。05年にヒト成長ホルモンや筋肉増強剤を使った違反で2年間の資格停止となり、引退した。



9秒77 ジャスティン・ガトリン選手(アメリカ)

2004年のアテネ・オリンピックの百メートル金メダリスト。06年5月に9秒77の世界タイ記録(当時)を出したが=写真☆、ドーピング違反で失格。違反は2回目なので本来なら永久資格停止だが、調査に協力したことから処分は資格停止8年に軽くなった。



「スポーツは科学だ!」

(スポーツを科学する5、東京大学体育科学研究室・著、大月書店)

「勝利とスポーツマンシップ」

(スポーツ感動物語9、広岡勲ほか・著、学習研究社)

「ドラッグと健康といのち」

(考えようあなたの健康といのち3、勝野真吾・著、学習研究社)

「カーテンの陰の悪魔—イングリッドの謎解き大冒険」

(ピーター・エイブラハムズ・著、奥村章子・訳、ソフトバンククリエイティブ)